

## 相愛大学研究シーズ集

シーズ名	幼児期における人間関係を形成するために必要な要因に関する研究 ～3歳児の発達を捉えて～
所 属	人間発達学部 子ども教育学科
氏 名	中塚 景子
<p><b>【概要】</b>          少子化、核家族化、及び地域社会のコミュニティー意識の衰退などから、人間関係の希薄化が社会問題の一つにあげられている。これは、子ども社会でも同様の傾向が見られる。子どもが成長し自立する上で、達成感や満足感を味わい成功体験をするだけでなく、葛藤や挫折などの体験も含め、多様な体験を経験することが不可欠である。しかし、昨今、子ども同士が集団で遊びに熱中し、時には葛藤しながら、互いに影響しあって活動する機会が減っている。就労する保護者の増加や帰宅後も習い事に行くなどのため、子ども同士が遊ぶ機会は幼稚園や保育所でないと持てない状況になっている。これは、就学前施設がこれから担っていく役割の一つでもあると考える。この現状を踏まえ、友達と関わる力を身に付けるために必要な「感情体験」について、特に3歳児の発達を素材として研究するものである。</p> <p>友達に興味をもち、そこから受ける刺激から主体的に遊ぼうとする姿や友達と関わろうとする姿が見られ始める3歳児において、友達がしていることに「気付く」「興味をもつ」「真似てやってみる」「楽しさを味わう」「うまくいかない経験をする」「平行遊びをする」「友達と言葉をかわす」「一緒に遊ぶ」などの行為を通して味わう様々な気持ちを「感情体験」とし、人と関わる力につながる3歳児において味わべき感情について分析する。</p>	
キーワード	人間関係 3歳児 感情体験 自由遊び